

講座

茶の湯文化学会 創立20周年記念出版

日本茶の湯全史

〔全3巻〕

◎編集委員会◎

代表 熊倉功夫

影山純夫、竹内順一、田中秀隆、谷端昭夫、中村修也、中村利則、美濃部仁

茶の湯文化学会 編

▶ 四六判・各巻 平均330頁

▷ 第1巻 中世 ◁ 定価2,625円 (税5%込) ISBN978-4-7842-1696-3

【2013年6月刊 好評発売中】

▷ 第2巻 近世 ◁ 定価2,625円 (税5%込) ISBN978-4-7842-1697-0

【2013年 今夏 刊行予定】

▷ 第3巻 近代 ◁ 定価2,625円 (税5%込) ISBN978-4-7842-1698-7

【2013年7月下旬 刊行予定】

茶の湯文化学会の創立20周年記念出版。近年、茶の湯の歴史的研究は、著しい展開とともに、テーマは多岐にわたり詳細をきわめている。本講座は、日本文化史の中に位置づけられた茶の湯の展開を、茶の湯文化学会が総力をあげて俯瞰する。

時代を輪切りにしながら見る本編と、茶の湯の重要な要素を通史として見渡す特論からなりたち、さらに各巻には時代別の概説と研究の手引き、参考文献を掲げ、研究課題を提示することで、初学者にはもちろん、さらに深く茶の湯研究を志す人にとってのハンドブック的な要素もたせる。最新の研究成果をふまえ茶の湯を通覧する、まったく新しい概説書。

第1巻 中世〔内容目次〕

刊行によせて

I	概説：茶の湯の成立	—— 熊倉功夫
II	平安・鎌倉の喫茶文化	—— 橋本素子
	会所の茶の湯	—— 影山純夫
	珠光から紹鴎へ	—— 谷 晃
	茶会記から何を読み取るか	—— 竹内順一
	千利休の生涯	—— 中村修也
	利休の茶の湯	—— 谷端昭夫
III	中国喫茶史	—— 高橋忠彦
	日本茶業史	—— 寺田孝重
	茶の民俗	—— 中村羊一郎
IV	中世茶の湯研究の手引き	—— 中村修也
	参考文献	

第2巻 近世〔予定内容目次〕

I	概説：近世の茶の湯	—— 熊倉功夫
II	利休七哲	—— 八尾嘉男
	千宗旦と三千家の成立	—— 原田茂弘
	遠州と石州	—— 中村利則
	元禄時代の茶の湯	—— 木塚久仁子
	千家茶の湯の広がり	—— 堀内宗完
	茶の湯の地域的展開	—— 山田哲也
III	煎茶の理念と表現	—— 佃 一輝
	茶陶	—— 赤沼多佳
	茶の湯の名物記	—— 矢野 環
	茶室論	—— 日向 進
IV	近世茶の湯研究の手引き	—— 谷端昭夫
	参考文献	

第3巻 近代〔内容目次〕

I	概説：近代の茶の湯	—— 熊倉功夫
II	井伊直弼と幕末維新の茶	—— 谷村玲子
	外から見た茶の湯	—— 田中秀隆
	近代茶家の復活	—— 筒井絃一
	近代数寄者の茶と数寄空間	—— 矢ヶ崎善太郎
	女性の社会進出とお茶	—— 大屋幸恵
	座談会：茶の湯研究の課題と展望	—— 編集委員
III	茶の文芸	—— 石塚 修
	茶の思想	—— 美濃部仁
	茶の科学	—— 小泊重洋
IV	近代茶の湯研究の手引き	—— 田中秀隆
	参考文献	

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel.075-751-1781 fax.075-752-0723
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

注文票

発行：思文閣出版

(京都 取引コード 3402)

冊数	冊	講座 日本茶の湯全史 第1巻 中世	本体2,500円(税別) ISBN978-4-7842-1696-3	
	冊	第2巻 近世	本体2,500円(税別) ISBN978-4-7842-1697-0	
	冊	第3巻 近代	本体2,500円(税別) ISBN978-4-7842-1698-7	
お名前	〒		tel	
ご住所	〒		e-mail	
送本方法	<input type="checkbox"/> 書店経由 (このちらしを書店にお渡し下さい) <input type="checkbox"/> 代 引(書籍代+送料を現品と引き替えにお支払い)			 第1巻HPのQRコード

近代の「美術」と茶の湯 言葉と人とモノ

依田徹著

【2013年6月刊行】

明治維新で価値を落とした茶道具は、どのようにして美術作品として再評価されるようになったのか？

千利休と岡倉天心に注目し、近代美術史の視点から、明治以降の茶道具の評価を捉え直す。美術作品と茶道具の境界線を問う、革新の一書。

【内容】序論「美術」と茶の湯 第1部 茶道具評価の変容 日本美術史における茶の湯／文化財指定と茶道具 第2部 茶の湯の文化価値の創出 明治期の文化論と茶の湯／『茶の湯』の成立と構造 第3部 理論整備と作家制作 「美術」と「茶の湯」の仲立ち／「美術」作家による茶道具制作 第4部 茶道具の「美術作品」化 近代の千家道具／茶碗イメージの変遷 第5部 「芸術家」利休の誕生 日本美術史における茶入／『茶の本』の影響／戦後の茶道具論／結論 言葉と人とモノ／付表：総合年表・茶道具文化財指定年表

▶A5判・336頁／定価6,720円

ISBN978-4-7842-1693-2

野村得庵の文化遺産

野村美術館学芸課編

【2013年8月刊行予定】

野村財閥を築き上げ、偉大な数寄者でもあった得庵野村徳七（明治11年～昭和20年）。その膨大な文化遺産は、野村美術館などに伝えられている。本書は、野村美術館設立30周年記念事業として、野村得庵の文化活動に焦点を当て、各分野の第一人者が論文集の形でまとめる伝記。1951年発行の『野村得庵』全3巻以降新たに発見された史料や最新の研究動向をふまえ、新たな得庵像を提示する。図版多数。

【予定内容】得庵と碧雲荘（中村昌生）得庵の古画蒐集（河野元昭）得庵の能楽再考—『野村得庵』以後の知見を中心に（天野文雄）得庵の茶の湯再考（谷晃）得庵の建築（矢ヶ崎善太郎）得庵蒐集の美術工芸品について（守屋雅史）得庵と煎茶—碧雲荘内「北泉居」煎茶師記を中心に（船坂富美子）《翻刻》野村得庵筆藏帳『文房具・煎茶器』（船坂富美子）得庵と近代画家（松尾敦子）棲宜荘建築図面の復元（柚木憲一）

▶A5判・470頁／定価3,150円

ISBN978-4-7842-1701-4

復活！不味公大圓祭

逸翁美術館編

小林一三が愛した大名茶人・松平不味

逸翁美術館展覧会図録。逸翁が敬愛した大名茶人、松平不味。昭和29（1954）年に阪急百貨店の古美術街で開催された「不味公大圓祭」では、松江からの出品など、不味公の好みものや、縁の作品などが展示された。本書は、「不味公大圓祭」で出品された作品を中心に、不味遺愛の名品「雲州蔵帳」収録品、逸翁収集の不味作品などをカラーで収録。

▶A4判・84頁／定価1,050円

ISBN978-4-7842-1685-7

茶会記をひもとく—逸翁と茶会

逸翁美術館編

特別展覧会の展示図録。逸翁（小林一三）は、三井銀行を退社し、筑面有馬電気鉄道（後の阪急電鉄）を起業した40代前半頃、茶道の師となる表千家の生形貴一宗匠と出会い、本格的に茶人としての道を歩み始めることとなる。茶の湯との出会いや、近代数寄者としての歩みを、残された茶会記をひもとくしながらオールカラーで明らかにしていく。

▶A4判・92頁／定価1,050円

ISBN978-4-7842-1626-0

近代茶道の歴史社会学

田中秀隆著

「伝統文化とは近代に自己変革に成功した文化である」との近代茶道史テーゼにもとづき、近代国家の文化的アイデンティティの生成構造面から、茶道が日本の「伝統文化」として認知されるようになった過程を考察する。【内容】第一部 近代茶道の三つの転換期／第二部 伝統文化の解釈者たち／第三部 茶道への理論的アプローチ

▶A5判・454頁／定価6,825円

ISBN978-4-7842-1377-1

近代数寄者のネットワーク

齋藤康彦著

茶の湯を愛した実業家たち

高橋義雄、根津嘉一郎、小林一三……。数寄者と称された彼らが茶会において何度も同席し、財閥の枠を超えた交流が繰り返されていたことはあまり知られていない。本書は、従来顧みられなかった茶会記録である『茶会記』のデータ分析を通して政界・官界・実業界を横断するネットワークを描出するものである。

▶A5判・308頁／定価4,200円

ISBN978-4-7842-1603-1

茶の湯と音楽

岡本文音著

茶道文化学術奨励賞（主催 大日本茶道学会）

茶の湯の美的価値観や性格は、これまで形として残されたものの考証から論じられてきた。本書では形としては残されない「音楽」という視角から、その論考を試みる。室町時代後期の草創期から江戸時代初期の千利休による大成という、茶の湯が発展・拡大へと向かう時期の文献をひもとく、「音楽」をとおしてみる茶の湯の美意識を解明。

▶A5判・376頁／定価8,190円

ISBN978-4-7842-1606-2

※茶道と恋の関係史

岩井茂樹著

恋歌と茶道の関係を茶書や茶会記に探る。茶会の掛物のほか、茶道具の銘に隠された「恋」を紹介し、なぜ恋歌が問題となり、また使われることもあったのかを明らかにする。【内容】茶書中に見られる恋への言説／恋の茶会—恋の掛物をなぜ使うのか？／銘の世界—隠された恋の役割／恋とは何か？—恋歌の本意と、千家流茶道にとっての恋歌

▶A5判・232頁／定価3,990円

ISBN4-7842-1313-9

茶の湯 連翹抄

戸田勝久著

裏千家の茶家戸田即日庵に生れる。父は今日庵名誉教授直翁宗寛。尾張徳川家の世臣であったが、瓦解の後東京に移居して茶家となった。今日庵業縁として三代を経ている。教授者（茶名宗安）と併せて、茶の湯の研究に従事して、平成17年3月まで茶の湯文化学会副会長の任にあった。本書は、その業績を集大成している。

▶A5判・604頁／定価7,980円

ISBN4-7842-1267-1

武野紹鷗 わびの創造

戸田勝久先生喜寿記念論集刊行会編

裏千家今日庵業縁であり、教授者（茶名宗安）と併せて、永年茶の湯研究に従事してきた戸田勝久先生の喜寿を記念し、武野紹鷗を基軸として、斯界の論者24人が原稿を持ち寄った論集。【内容】第一部 紹鷗像とその茶の伝統／第二部 禅と文芸／第三部 好みとわびの表現

▶A5判・614頁／定価12,600円

ISBN978-4-7842-1471-6

公家茶道の研究

谷端昭夫著

茶道文化学術賞（主催 大日本茶道学会）

近世における「公家茶道」を取り上げ、その独自の形態、実態と特徴、茶道史における位置づけを考察し、茶が持つ文化の内実を深める。【内容】序章 公家の茶の研究／第1章 公家茶道への序章／第2章 公家茶道への道—寛永の公家たち／第3章 公家茶道の形成／第4章 流儀化と伝授／終章 まとめにかえて／史料編「後西院御茶之湯記」

▶A5判・394頁／定価6,825円

ISBN4-7842-1265-5

茶譜 [全2冊]

谷晃・矢ヶ崎善太郎校訂

茶湯古典叢書⑤

近世茶書としては最も大部にして体系的なものの一つである茶譜（全18冊）は、利休・織部・遠州・宗和・宗且のそれぞれの茶匠とその時代の茶の湯を、確かな情報に基づいて茶の湯の分野ごとに再編集したものである。西尾市岩瀬文庫蔵本を底本とし、現存する諸本と校合して全編活字化。挿図についても別冊の写真版で全て収録。

▶A5判・本文篇756頁 図版篇168頁／定価21,000円 ISBN978-4-7842-1528-7

茶の医薬史 中国と日本

岩間眞知子著

もともと茶は薬であった。日中の歴代医薬書の中には茶の記事があり、そこには茶の効能や処方のほか異名・産地・製法も記され、古辞書や『茶経』『茶譜』など茶書の抜粋も収録し、非常に貴重な史料である。本書は、中国と日本の医薬書史料の影印を多数収録し、それらの史料から中国・日本の各時代における茶の様相とその歴史の変遷を明かす。

▶A5判・526頁／定価9,450円

ISBN978-4-7842-1463-1

日本の食の近未来

熊倉功夫編

飽食の時代において、「食の豊かさ」は今後何をもちたらすのか？このような現代日本に疑問を感じた8名の研究者が、食文化の近未来について共同研究会を行った成果。

【執筆者】熊倉功夫／林在圭／深田てるみ／清ルミ／守屋壱記子／シニア・ネリ・ザヤス／草野美保／米屋武文

▶46判・260頁／定価2,415円

ISBN978-4-7842-1678-9

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。

電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。